

最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

笑顔があふれる社会へ

横浜市立西前小学校

六年 仁藤愛花

皆さんは、自分の身体が思い通りに動かせない時、どんな気持ちになるか考えたことはありますか。私があります。なぜかという私の兄がダウン症で、生まれつき筋力が弱く、上手に歩く事ができないからです。知的な発達の遅れもあり、一人で行動する事は難しいです。常に誰かの手助けを必要とする兄と生活していると、兄自身も兄を支える家族も大変だと思ふ事もあります。

しかし、兄との生活は苦勞もありますが、それ以上に嬉しい気持ちになる事が沢山あります。兄が頑張る姿、感謝を伝えてくれる姿、何気ない事に喜ぶ姿をみると私まで嬉しくなり、元気づけられます。兄と参加した行事でボランティアの方に助けてもらった時は、兄はもちろ

ん私もとても嬉しい気持ちになりました。私もボランティアに参加してみようと興味を持ち、将来の夢にもつながりました。

兄には、車いすを使い日常生活を送っている友達も沢山います。その友達と過ごしている時に、気になる言葉がありました。それは、「すみません」という言葉です。手が届かずに助けてほしい時、段差や幅のせまい場所を通る時など色々な場面で耳にしました。そんな時の「すみません」が「ありがとう」と言える社会なら今よりもっと沢山の笑顔があふれると思います。私達の暮らす社会には誰もが安心して暮らすための仕組が整っています。その仕組をより良い仕組にするためには私たち一人一人の協力も必須だと思えます。

「なんとなくはずかしい」で片付けず、今、目の前にいる相手の気持ちに寄りそってみる。「何かお手伝いする事はありますか。」と声をかける、ボランティア活動に参加する…私達小学生でもできる事は沢山あります。勇気を出して一歩踏みだす事で、今よりもっと笑顔があふれる社会をめざしたいと思えます。